

# 福島市農業委員会報

## 第177号

平成29年12月

編集 福島市農業委員会事務局  
発行 福島市農業委員会  
〒960-8601  
福島市五老内町3番1号  
電話 024-525-3779(直通)



▲表彰式の様子

## 平成29年度

### 福島県下農業委員会大会開催

平成29年11月14日、「パルセイイざか」において、福島県下農業委員会大会が開催されました。

本大会は、東日本大震災並びに原子力災害からの復興、農地利用の最適化の推進と担い手の育成・確保を図るため、県内の農業委員及び農地利用最適化推進委員が一堂に会し、意思の結集と組織の活性化について、研究・討議をするため開催されました。

大会では、永年勤続農業委員・農地利用最適化推進委員の表彰も行われ、当市農業委員会からは前農業委員の高橋徳次さん・兒玉進市さん、農業委員の渡邊敏明委員・加藤功委員・芳賀正寿委員・宍戸薫会長、農地利用最適化推進委員の菅野富美委員が受賞されました。

表彰式・来賓祝辞の後、基調講演として「農地利用の最適化に向けた農業委員・農地利用最適化推進委員の役割について」があり、議事では「改正農業委員会法の下での活動強化に関する申し合わせ」などが議案とされ、原案どおり可決されました。

最後に、大会宣言が満場一致で採決され、がんばろう三唱で閉会されました。

## 市長に「平成30年度農地等利用最適化推進施策の 改善についての意見」を提出しました



▲ 意見提出の様子

農地等利用最適化推進施策に関わる各地域の意見を集約し、農政対策小委員会（油井妙子委員長）で原案を作成したうえで、9月開催の第23期3回農業委員会総会で議決した意見を10月17日に宍戸薫会長が市長へ提出しました。意見の主な内容は以下のとおりです。

### 1 農業振興対策全般

- (1) 経営所得安定対策の拡充について
- (2) TPPの対応について
- (3) 日欧EPAの対応について
- (4) 海外への販路拡大について
- (5) 6次産業化・ブランド化に向けた支援策について
- (6) 観光と結びついた施策について
- (7) GAP取得の支援について

### 2 耕作放棄地解消施策

- (1) 農地中間管理機構の体制強化について
- (2) 耕作放棄地に対する課税強化について  
耕作放棄地が貸付け可能であるにも関わらず貸付けしない所有者や、耕作する意思のない所有者等をのぞき、課税強化とならないよう、国及び県に働きかけること。
- (3) 耕作放棄地解消に向けた連携について
- (4) 耕作放棄地の管理について
- (5) 不在地主対策について
- (6) 圃場等の整備について

### 3 有害鳥獣被害防止対策

- (1) 有害鳥獣被害防止のための支援について
- (2) 有害鳥獣捕獲対策について

### 4 農作物の被害対策について

### 5 農業経営支援対策

- (1) 認定農業者等担い手への支援強化について
- (2) 労働力不足解消対策と農業サポートセンターの機能充実にについて

### 6 農業後継者、新規就農者支援対策

### 7 女性農業者の活躍にむけた取り組みについて

### 8 放射能汚染対策と損害賠償継続について

- (1) 放射能汚染対策について
- (2) 損賠賠償継続について

### 9 安全・安心な農産物のPR活動の強化

### 10 福島大学農学系学類との連携

- (1) 農業系高校、地元農家との連携、交流について
- (2) 卒業生の受け入れ体制の構築について

### 11 再生可能エネルギーの支援について

### 12 太陽光発電の普及に伴う農地に及ぼす影響について

### 13 農業委員会事務局職員の増員について



## 農業ふれあい体験を実施しました



食育活動や農業体験を通じて、未来を支える子どもたちが、食から健康をつくる大切さや、生きるために必要な食べ物をつくり出す「農業」を学ぶ機会として、平成29年10月15日に第1回農業ふれあい体験を実施しました。

当日は、上野寺地内でリンゴ、町庭坂地内でブドウを収穫しました。

収穫体験後は、皮の長さを競うリンゴの皮むき大会、農業委員・農地利用最適化推進委員による紙芝居の読み聞かせをしました。

参加者からは「普段体験できないことができて楽しかった」「紙芝居が素敵なストーリーで面白かった」などの感想があり好評でした。1月20日開催予定の第2回農業ふれあい体験ではリンゴを使った料理教室とクイズを実施します。



▲ リンゴの収穫体験



▲ リンゴの皮むき大会



▲ 紙芝居

## 平成29年度 農業委員会視察研修報告



農業委員及び農地利用最適化推進委員の資質向上、本市の農業振興施策等の参考に資するため、11月1日から2日にかけて下記のとおり視察してきました。



▲ 茨城町農業委員会視察研修の様子（1日目）



▲ 東海村農業委員会視察研修の様子（2日目）

### 【茨城町農業委員会】農地利用の最適化のための農業委員と推進委員の連携について

茨城町農業委員会を訪問し、農地利用最適化に向けての研修を受けてきました。地域ごとに農地集積推進協議会を設置し、徹底した営農意向調査を行い、現場が見える地図を基に担い手への農地集積の課題に取り組み、確実な実績をあげていました。

次世代へ地域農業を繋ぐため、強い責任感を持ち行政と連携して取り組んでいる活動に学ぶことが多々ありました。

編集委員 油井 妙子

### 【東海村農業委員会】農地利用の最適化のための取り組みについて

東海村農業委員会の取り組みとして昨年4月の制度改正後農業集落座談会を開催し「優良農地を守る」というテーマを設定しワークショップ形式で実施し意識の向上を計ったことは良いことだと思います。東海村は耕地面積が福島市の7分の1、農地が村全体の26%、宅地が27%なので、取り組みが福島市にすべて当てはまる訳ではないので良い面を取り入れて今後の活動に活かしていければと思います。

編集委員 鈴木 顯典



# 農地利用状況調査を実施しております



▲平成29年度農地利用状況調査の様子

新体制になって初めての農地利用状況調査（農地パトロール）を、農業委員と農地利用最適化推進委員が合同で今年の8月から実施しております。「農地利用の最適化」が農業委員会の必須業務となったことを踏まえ、管内の農地を見回り、遊休化しているか否かを調査しております。この結果、遊休農地の所有者には、適正管理を促す通知や農地の利用意向の確認を行います。調査にあたり農地への立ち入りやお話を伺うこともありますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

〈問合せ先〉農業委員会事務局 農地係 (525)3779

**みんなで遊休農地を発生させないように取り組みましょう！**

## ☆農業者年金へ加入しませんか

～国民年金の上乗せ年金として、農業者だけが加入できる制度です～

<b>1. 農業者の方なら広く加入できます</b>
国民年金第1号被保険者（保険料納付免除者を除く）で、年間60日以上農業に従事している60歳未満の方は誰でも加入できます。農地を持っていない農業者、配偶者や後継者などの家族従事者も加入できます。
<b>2. 保険料は自分で選べ、いつでも変更できます</b>
自分が必要とする年金額の目標に向けて、自分で保険料を決められます（月額2万円から6万7千円までの間で千円単位）。経営状況や老後の生活設計に応じて、いつでも見直しが可能です。
<b>3. 税制面での優遇があり、節税になります</b>
支払った保険料は、全額が社会保険料控除の対象となり、所得税・住民税の節税につながります。
<b>4. 年金資産は安全性を重視して運用しています</b>
積み立てた保険料とその運用益により将来受け取る年金額が決まる「積立型（確定拠出型）」の年金です。少子高齢化が進んでも、その影響を受けない財政的に安定した制度です。
<b>5. 80歳までの保証付き終身年金です</b>
年金は、原則65歳から生涯受給できます。万一、加入者・受給者が80歳前に亡くなった場合でも、80歳までに受け取れるはずだった農業者老齢年金相当額が死亡一時金として遺族に支給されます。
<b>6. 意欲ある担い手には、国から保険料補助が受けられます</b>
認定農業者で青色申告をしている方やその方と家族経営協定を結んだ配偶者・後継者など一定の要件を満たす方には、政策支援として国から月額最高1万円の保険料補助が受けられます。

申し込みや相談は、お近くのJAまたは農業委員会事務局庶務係 ☎525-3779までお問い合わせください。

**全国農業新聞を読みませんか？**

- 発行日：毎週金曜日
- 購読料：月額700円
- 申込先：農業委員会事務局  
(☎525-3779) まで

### 《第23期編集委員紹介》

小山 正雄（福島区域）	宍戸 忠一（北福島区域）
油井 妙子（須南区域）	菅野 善晴（飯坂区域）
尾形 寅昭（松川区域）	黒澤喜久夫（信夫区域）
鈴木 顯典（吾妻区域）	